

# 情報モラルと道徳⑤

～『わたしたちの道徳』とのコラボを考える～

北川 忠



## 1 「なかよしノート」(『ゆたかなこころ2年』光文書院)

情報モラルとして取り扱う内容は「情報社会の倫理・約束やきまりを守る」である。資料には学級全員が順番に閲覧し、書きこむことができる「なかよしノート」が登場する。この「なかよしノート」に個人のトラブルがもちこまれることで事件が起きた。「たかし」が「けんた」への怒りをノートに書きこんでしまう。このノートを見た次の子も「けんた」を拒否する書きこみを行い、また次の子も同様に書きこんでしまった。書きこまれた「けんた」もこのノートを見ていやな気持ちになる。まさにアナログの掲示版であり、LINE・フェイスブックなどで発生するネットトラブルに酷似した事例である。

## 2 いじめであるということ

本資料のねらいは「みんなで使うものを大切に」する4-(1)公德心である。「大切に」という意味は「傷まないように丁寧に扱う」ということだけではなく、「本来の目的を理解して使用する」ことも指している。学級のみんが仲良くなるためにつくられたであろう「なかよしノート」である。たとえ「けんた」が日常から周囲の子とトラブルを起こしがちで、やや強い立場にあるとしても、ノートへの書きこみで彼に報復することはノート本来の使用目的からはずれている。「なかよしノート」は一对一の交換日記ではなく学級全員が閲覧できるものであるため、書きこまれてしまった内容とは異なる事実があったとしても第三者には正確に伝わらず、真実を知らないまま批判に追従するものも現れて特定の個人に心的被害を与えることにつながってしまうからだ。使い方を間違えればいじめの温床になってしまう。

## 3 ねらい

◎次に使う人のことを考えてみんなが使うものを大切に。4-(1)規則尊重、公德心  
・「なかよしノート」はみんなが仲良くなるためにあることがわかる。

- ・ノートを見たけんたがいやな気持ちになっていることがわかる。
- ・みんなが使うものを使うときのきまりがわかる。
- ・みんなで使うものは次に使う人のことを考えて使おうとする。

## 4 指導の流れ

導入では『わたしたちの道徳』122, 123ページを使ってみんなが使うものについて考えさせる。

- ・どんなものがあるか。
- ・みんなが使えるものがあるかどうか。
- ・使うときのルールは何か。

この導入部では、主にものを傷めないように使うことが出されると思うが、みんなが使うものを次に使うのは自分ではないこともあるということを確認しておく、展開への仕掛けとなる。

続いて資料に入り、テーマに沿った発問で考えさせる。

- ・「なかよしノート」は何のためにあるか。
- ・一番嫌な気持ちになっているのはだれか。
- ・自分ならどんなルールを考えるか。

特に一番嫌な気持ちになっている人物を考えさせるときには複数の人物を図で比較し、事実なのか思いこみなのかも表示することで、結果的に一人を集中していじめてしまうことになっていることに気づかせておきたい。また、導入で考えたみんなで使うものの使い方と重ねることで、使い方にはものを傷めないことと次に使う人の気持ちを考えるという二つの面があることに気づかせる。

終末ではいつもものを大切に扱っている子を紹介して、みんなが仲良く生活するためにみんなのものを大切にしようという実践意欲をもたせたい。

## 5 公德心へつなぐ

ブラジルでサッカースタジアムのごみを拾って帰る日本人サポーターが話題になった。公德心は日本人が小学生の時から訓練されてきた賜物であろう。低学年から心を育て、実践につなげたい。